やっぱり
山田映画がいちばん！

発　行　とよなか山田会
発行日　2017年12月**創刊号**

とよなか山田会ニュースレター**創刊号**

山田洋次生誕地から

とよなかは、ぼくのふるさとです。
2歳までしか住んでいなかったんですが、
あざやかな思い出が残っています。
（2016年5月4日　先行上映会でのお言葉）



（2017年7月28日映画大学 in 神戸、私学会館にて）
映画の創り方、観方について熱く語られました。

豊中には、ぼくの生まれた家がまだ残っていて、
大切に住んで頂いています。
豊中は懐かしいまちと新しいまちが仲良く
共に住み暮らしているすばらしいまちです。
（2016年　豊中市名誉市民となられて）

2017年をふりかえり
天災、人災、政災（？）……2017年がめまぐるしく足早に過ぎようとしていますが、我らの山田洋次氏は、ますます充実、円熟の1年。知っているだけでも……

◎3月　東京日生劇場「寅さん」の原点といわれるフランス古典喜劇「音楽劇マリウス」の脚本・演出
◎3月　葛飾柴又　寅さんの銅像のとなり　さくらさんの銅像お披露目
◎5月　前進座国立劇場公演「裏長屋騒動記」監修・脚本
◎5月　豊中市文化芸術センターで「家族はつらいよII」先行上映会
◎7月　映画大学 in 神戸　で講演
◎10月　寅さん記念館開館20周年記念
◎10月　「家族はつらいよIII」クランクイン
◎10月　「第2回澄和フューチャリスト賞」受賞
◎11月　寅さんサミット2017
◎12月　山田監督脚本・演出初春新派公演「家族はつらいよ」制作発表

11月「寅さん」の舞台 柴又、国の「重要文化的景観に」！

葛飾柴又のまちなみが、将来も残す価値が高いものとして国が文化財保護法による「重要文化的景観」に選定するよう文化審議会が答申。長年国民の心に残り、よりどころとなる名作の風景が失われてはならないとの考えで、映画の舞台が国の指定となるのはきっと最初で最後ではないでしょうか。
重要文化的景観とは「国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」とされています。これまでには天橋立、四万十川、近江八幡水郷などが選定されています。



朝日新聞デジタルより

豊中の宝 ‼ 監督の生家訪問記

山田洋次監督が生まれてから２歳まで過ごした生家が今も豊中市に残っています。現在お住まいの高橋雅子さんのご厚意で、とよなか山田会スタッフが、お家を訪問させてもらいました。



生家玄関前で高橋雅子さん

スタッフ：建設されてからどれくらいになるのですか？
高橋さん：８５年以上になります。それまでお住まいだった山田監督のお父様の転勤が急に決まり、勤務先が同じだった私の祖父が譲り受けたと聞いています。
スタッフ：モダンな家ですね。お父様の設計と聞けばうなずけます。
高橋さん：当時、まわりはかやぶき屋根の家がほとんどで、とても目立つ家だったそうです。４０年程前に近所で大きな火事があったのですが、延焼もせず無事でした。
スタッフ：山田監督も訪問されたのですよね。
高橋さん：はい、３年前に。玄関口や庭の様子を懐かしんでいただきました。
スタッフ：赤い屋根もそうですが、玄関や入ってすぐの応接間など、内装も山田監督の映画「小さいおうち」の昭和モダンの世界そのままですね。
高橋さん：私が絵を描くので、アトリエとして内装をリフォームした部分はありますが、間取りはもちろん、ガラス窓や木戸など建具類も当時のままです。職人さんにも、割れても替えはないと言われています。
スタッフ：ステンドグラスのように西日を通すガラス窓や、一枚板で年輪が美しい引き戸など、細かい造りまで素晴らしいです。
高橋さん：私は古い家が嫌で、家中リフォームしたいと思ったこともあったのですが、山田監督に実際に見ていただくことができて、住み続けて良かったと心から思いました。
スタッフ：このお家は豊中の宝ですから、いつまでも大切にしていかなければいけない建物ですね。本日は、本当にありがとうございました！！！



生家の赤い屋根

＊ご注意＊山田監督生家は一般公開されておりません。



＊今後「ニュースレター」シリーズの案としては、
「今も生きる寅さん！」男はつらいよ・寅さん第１作から４８作まで内容紹介、山田監督のご活躍紹介、山田監督の本の紹介、山田洋次と山田映画を語る、山田監督由来の地めぐり（東大、柴又、山口、松竹撮影所など）、その他ご意見、ご提案お待ちしています。

とよなか山田会へ入会しませんか！

世界に誇る監督・脚本家山田洋次さんが生まれた豊中を誇りとし、もっとその作品と監督の素晴らしさをひろめるため平成26（2014）年発足。どなたでも賛同する方に入っていただけます。

■こんな活動をします。
上映会、山田映画を語る会、ニュースレター発行、新しい山田監督の創作に親しむ会。「舞台、音楽劇」他みんなのアイディアもちより

■例えばこんな人歓迎します。
山田監督とその映画のことをもっと知りたい人、「寅さん」が好きな人、映画の楽しみ方の深め方、再発見したい人。

■私たちの夢
豊中で全国初の「山田洋次映画祭」をみんなで企画、開くことです。

問合せ先　　とよなか山田会（代表 武市 進）
住　　所　　〒561-0894　豊中市勝部１-１-７　携帯番号　080-3868-2010　FAX　050-7100-3065
メールアドレス　info@toyonakayamadakai.com　ホームページ　http://toyonakayamadakai.com
会費は今のところ無料（カンパ、ボランティア歓迎）

fax（入会していただける方は、下にご記入の上、**050-7100ー3065** まで）

お名前　　ご住所　　連絡先及びメルアド

2017年7月28・29・30「映画大学 in 神戸」

山田監督は語る「観客のエリートとして、しっかり映画を観、向き合ってほしい」

「いい映画はいい観客が創る」とは、山田洋次監督の至言です。ただし、映画鑑賞団体としては、「いい観客はいい映画が創る」とお返ししたいと思います。いい観客でありたい、いい映画を応援したいと願って加盟団体の多くは自主上映をし、もっと映画を学びたい、製作関係者などとナマで交流したいとの思いで、映画大学（毎夏、3日間、講師7～8人）などを開催しています。

私たちが山田監督を応援してきたのは、その都度作品への感動があったからですが、逆にそんな私たちを変わらず応援してくれてもいます。映画大学には、41回目の今年まで、36回も来てくれました。自作に込めた思い、役者さんのエピソードなど（たぶん本音で）率直に語ってくれました。撮影とポスプロ（撮影後の編集所）の隙間を縫って来てくれたこともあります。監督と鑑賞団体が、40数年に渡って信頼関係で結ばれ続けたことは凄いことだと思います。

元気もやる気も満々の山田監督ではありますが、お年も考えて、さらに監督業に集中していただくためにも、映画大学の講師を今回限りで卒業していただきました。この先は終身名誉学長として、見守っていただきます。

最後になる講義で、山田監督は原点とも言うべきメッセージを残してくれました。「観客のエリートとして、しっかり映画を観、向き合ってほしい」と。その熱い期待に応えられる観客として、鑑賞運動をさらに発展させていきたいとの思いを強くしています。

映画鑑賞団体全国連絡会議代表委員　岡本健一郎







2017年「寅さんサミットレポート」

男はつらいよファンクラブ会員　齊藤正夫

11月25・26日の両日、今年で3回目となる「寅さんサミット」が開催され、全国から寅さんファンが集まりました。また、喜ばしいことに11月17日に、葛飾柴又が国の重要文化的景観に選定するよう答申されました。人気映画「男はつらいよ」の舞台が、「日本の原風景」のお墨付きを得たのです。今年はお天気も良く、帝釈天参道は人込みで歩けないくらいでお正月の初詣の様子でした。つい前にアド街ック天国で寅さんサミットの案内があったせいか、年配の寅さんファンに加え、家族連れや若い方々も多く見受けられました。寅さん記念館側の寅さんサミット特設会場では、「男はつらいよ」の劇中で実際にロケが行われた御当地17地域が、地元名産のグルメや特産品を販売していました。特設ステージでは開会式が開催され、さくらさんこと倍賞千恵子さんより、映画以上に、この「寅さんサミット」が続きますようにとの御挨拶がありました。私達にとっても寅さんファンが集まり、また来年も寅さんサミットでの再会を約束し、良い交流の場となりました。











寄稿された齊藤さんは書道家と聞き、「山田洋次生誕地から」のタイトル文字をお願いしました。謝謝！

毎年各地もちまわりで開かれている「映画大学in神戸」が7月28・29・30日あり、300人ほどの全国の映画ファンというより「映画学派」とでも言えそうな人たちで、熱気につつまれていました。そこでの山田監督のお言葉を、断片的に報告します。

（とよなか山田会 H・K）

●「2012年」世界映画ランキングで小津安二郎・東京物語が1位に選ばれたのがとても印象的で嬉しい出来ごと、日本の映画が1番なんだ、とのお話からはじまり、（「東京家族」（2013）はそんな想いから創られたのかな？）

●映画を創る人のレベルで大切なのは、ある名画の説明をはじめた際「そこから先は言わないで、楽しみにしたいので」、それは間違っている。できる限りその映画を知った上で観ることでより理解し、学べることができるものです。

●昔「組関係」が支配しているころの神戸で映画を撮るとき、その「親分」にあいさつに出向かれたところ、「ええ映画を撮れ」「ジャンギャバンのペペ・ル・モコPele-le-moko（望郷）みたいな」と言われ、えらく感嘆されたこと。当時すでにペペ・ル・モコ（望郷の主人公の名前）知っているとは！

●寅さん（渥美清）も森繁久彌も天才なんだけど……

森繁久彌は名優だけでなく、歌をつくり歌う、文筆も達者、一方渥美清は何でもできる人なのに寅さん一途。「貧しい労働者諸君！」と言っても、渥美清の場合誰も怒らない、でも森繁久彌がそれをいうと怒りを買う…そこに違いがあったのです。（考えさせられます。）

●任侠映画のスター高倉健を「幸福の黄色いハンカチ」に起用しようとした時、助言を受け、場末の映画館で二本健さんの映画を観て感じたこと。それは同じような映画でも鶴田浩二らと「目が違う」ということ。そして定宿にしていた赤坂の旅館で初めて出会った健さんは、上下ブルージーンズのカッコ良さ、私の話を黙って聞かれた上で「やらせていただきます」と一言。玄関まで見送った私にニコッと「楽しみです！」と一言残して去られた瞬間「この映画はいける！」と感じた。（巨匠同士の出会いを語られぐっときました。）

夢のような、そして刺激いっぱいの2時間近くの「講義」。真剣さの中にも、和気あいあい、合いの手が入ったり、楽しい時間でした。

〝妻よ薔薇のように〟家族はつらいよⅢ　クランクイン!!

山田洋次監督が手がけた喜劇映画「家族はつらいよ」シリーズの第三弾が、「妻よ薔薇のように　家族はつらいよⅢ」のタイトルで製作され、2018年5月に公開される予定。シリーズ第3弾でも、「東京家族」（2012）から，家族，として過ごしてきた面々が出演。物語の主軸となるのは，妻，。ダメ夫を持つすべての女性が笑って共感し、しみじみ泣けて励まされる、山田ワールド全開の喜劇が繰り広げられる。

10月3日にクランクインしており、山田監督は撮影開始時に、スタッフ・キャストに「今回は妻への賛歌です。専業主婦の家事という仕事がどれだけ大変か、家族にとって主婦の存在がどれだけ重要な意味をもっているか。前回の作品（『家族はつらいよⅡ』）は周造の友人が巻き起こす騒動で、老人の貧困がテーマだったけれども、今回は（家族の）内側に内在していた夫婦の問題が噴出し、それに対して家族たちがどう対応し、オロオロしながらどう乗り越えていくか、そこが前とは大きな違いです。このテーマは、ある種の重みを持っているので、そこを　きちんと押さえて、楽しくも味わい深いどっしりとした喜劇をつくりたいと思います」と伝えた。

「映画.comニュース」より抜粋



「家族はつらいよⅢ」あらすじ

私の家族はつらいよ

史枝（夏川）は、育ち盛りの息子2人と夫・幸之助（西村）、そしてその両親と暮らす主婦。ある昼下がり、家事の合間にまどろんでいた隙に泥棒に入られ、冷蔵庫に隠しておいたへそくりを盗まれてしまう。幸之助から「俺の稼いだ金でへそくりをしていたのか」と嫌味を言われ、たまっていた不満が爆発した史枝は家を飛び出していく。家事を司る主婦が不在となった平田家は、大混乱かつ崩壊寸前。具合の悪い富子（吉行）に代わり、周造（橋爪）が掃除、洗濯、食事に挑戦するが悪戦苦闘を続け、家族そろって史枝の偉大さを痛感する。しかし史枝が帰って来る気配は一向になく、またもや家族会議が緊急招集される。